

令和 6 年度
入 学 試 験 問 題
— I 期 —

国 語

令和 6 年 1 月 14 日

い わ き 准 看 護 学 校

【一】次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

四万十川で漁をして暮らしているおじさんに話を聞いた。舟の上で、日本最後といわれる清流に浮かびながら。

「柴づけ漁」というその漁法は、実に素朴なものである。柴をたばねたものを川に沈め、一週間から十日たったところでひきあげる。するとそこに住みついた川エビやウナギがとれるというしくみだ。「住む」というのがミソで、だから罫いをしなくても逃げられることはない。時間とともに獲物が増えてゆくことはあっても、決して減りはしない。

柴は、おじさんが山で刈ってくるという。「だから、半分は山の仕事」だそう。川エビとウナギでは住まいの好みが違うらしく、ウナギのほうは葉っぱを多くしてやらないとダメ、とのこと。そのあたりは、長年のケイケンがものをいう。

目の前で私のために、ウナギをさばいてくれた。自然に川に棲息しているウナギは、とてもスマートだ。まず、キリのようなもので首のあたりをX [] とついで、まな板の上に固定する。Y [] と背中から包丁を入れ、ひらく。肝をとって骨をとってできあがり。三等分にしたものを、その場でかば焼きにしてもらった。舟の上に、ちゃんとコンロが横にあるのだ。私はふだん、魚をさばく時には、なんと背中あたりのZ [] してしまふ。活け造りの魚の目玉なども気になってしまふほうである。

が、おじさんがウナギをさばいてゆく一歩始終を見ていて、そんな感じは全くなかった。むしろ「美しいな」と思った。ほんとうにおいしくいただいた。

「ただ、ちょっとかわいそうな気がしますね……」私がそう言ったとき、ぴつと一瞬、おじさんの顔がこわばった。

「それはしかたのないことじやろ。人間に食べられるが、こいつらの運命よ」

終始なごやかな笑顔で話してくれたので、厳しい表情が、逆に鮮やかに印象に残っている。まこと安易に言ってしまった「かわいそう」を、後悔した。ふだん、自分が魚をさばいたり、活け造りの目玉を見たりして思う「気持ち悪い」という感覚も、同じ安易さからきているのではないかと思った。

おじさんにさばかれるウナギは、ちつとも気持ち悪くない。その違いは何だろう。

その違いは、魚とのつながり方ではないかと思う。同じ自然の中で生きているものとして、おじさんと魚はつながっている。都市で生活している私たちは、自然から離れた位置にあって、魚と関わりを持つ。だからいつもカントンに「かわいそう」と言えるし、無責任に「気持ち悪い」と感じてしまふ。

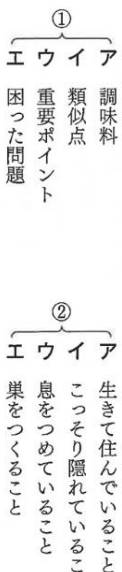
おじさんは漁をしながら、魚たちにとんだ気持ちを抱いているのだろう。「かわいそう」ではなくて……。

「ごちそうさま」と言いながらさりげなく聞いてみた。しばらくの沈黙ののちに返ってきた答えは「ありがとう」だった。

(「りんごの涙」(徳万智著)より)

問一 二重傍線部a s eのカタカナを漢字に直し、漢字には平仮名で読みを答えなさい。

問二 傍線部①、②の意味として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。



問三 空欄X、Y、Zに入れるのに最も適切な擬態語、擬音語を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ㊦ すーすー ㊧ りん ㊨ トン
- ㊩ スーッ ㊪ ダーダー

問四 傍線部③について、そのときの「おじさん」の気持ちとして最も適切なものを次から選び記号で答えなさい。

ア すべての生き物の命の大切さを教える筆者に、大いに感動した。

イ 自然の中で生活を十分に理解していない筆者の言葉に、感情を害した。

ウ 魚を扱い慣れた自分の技術を見抜いた筆者に、安心できないと思った。

エ 自然の中に生きるものの悲しい運命を悟った筆者の言葉に、共感した。

問五 傍線部④について、そのような筆者の「安易さ」が生じる理由を筆者はどのように考えているか。その理由を表す一文を、本文中から抜き出し、初めの五文字で答えなさい。

問六 傍線部⑤には、「おじさん」の何に対する感謝の気持ちが込められているか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 四万十川が豊かな獲物を自分にもたらししてくれることへの感謝。

イ 都会育ちの筆者が四万十川の魚を素直においしく食べたことへの感謝。

ウ 四万十川が、都会の人と自分との関係を深めさせてくれることへの感謝。

エ 自然の中でともに生きる魚が、その命によって自分を生かしてくれることへの感謝。

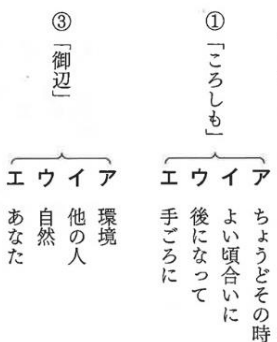
【二】次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ある山のもとに住みける木こり、山の神と懇意になり、ある夕、栖所へ尋ね行きしに、^①ころしも極寒にて冷たくありければ、木こり指を口へ当てて吹くと、主人怪しんで、それは何をなさるのじやと問ふ。木こり指先が余り凍えて覚えなきゆゑ、^②A [] のでござりますと答ふ。やがて食物を出せしに熱くして食ひがたければ、木こり皿を口へあてて吹くと、主人また何をなさるのじやと問ふ。木こり^③薬が余り熱きゆゑ、^④B [] のでござりますと言ふと、山の神たちまぢ面色を交へ、吾は以後^⑤御辺につきあふまじきぞ、同じ口より熱くも冷たくも、そのときなりに息を出す人とは、何事をも共にしなしたきぞと言ひける。

(通俗伊蘇昔物語より)

問一 二重傍線部「ゆゑ」の読み方を現代かなづかいのひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①、③の訳として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。



問三 傍線部②とは、誰のことか、本文中から三文字で抜き出して答えなさい。

問四 空欄A、Bに入れるのに最も適切な語を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア こする イ 冷ます ウ 流す
- エ 離す オ あたためる

問五 空欄Cには、本文全体のまとめの一文が入る。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア これは、信なく言を発すれども、懇意なる友は何事をも共になすといふ^{たより}論言なり。

イ これは、人と交はらざれば、いかなる人も終に^{まぎ}信の心を失ふといふ^{たより}論言なり。

ウ これは、人と交はるるに、言毎に^{ことごと}変はり信なきものは終に友を失ふといふ^{たより}論言なり。

三

敬語には、ア尊敬語、イ謙讓語、ウ丁寧語の三つの用法があるが、次の傍線部は、それぞれ何に当たるか、記号で答えなさい。

- ① 三時¹においでになるのは承²りました。
- ② あなたが描³かれた絵⁴をいた⁵だきました。
- ③ 先日⁶申⁵上げたとお⁶り、明日は水戸市に行⁶きます。

四

次の傍線部の漢字の読み方を、ひらがなで答えなさい。

- ① 飢餓¹状態に陥²る。
- ② 社会福祉³に貢⁴献⁵する。
- ③ 東京の治安⁶を維持⁷する。
- ④ 天賦⁸の才能⁹を伸¹⁰ばす。
- ⑤ 銘柄¹¹米の栽培¹²が増¹³える。
- ⑥ 神前¹⁴で神樂¹⁵が奉納¹⁶される。

五

次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 頭痛薬¹のジュヨウ²が増大³する。
- ② セイケツ⁴感⁵のある服装⁶。
- ③ ボウエキ⁷商⁸を営⁹む。
- ④ ムジユン¹⁰した説明¹¹だ。
- ⑤ 福祉¹²のブンヤ¹³で活躍¹⁴する。
- ⑥ ヒハン¹⁵を受け止¹⁶める。

六

次のことわざ・慣用句の空欄に入る語を後の語群から選び、記号で答えなさい。

- ① 良薬¹は（ ）に苦し
- ② 絵に画²いた（ ）
- ③ 三つ子の魂³（ ）まで
- ④ 有終⁴の（ ）
- ⑤ （ ）に小判
- ⑥ （ ）から出た錆

語群（ア口 イ百 ウ猫 エ身 オ餅
カ美 ）

七

次の空欄に、傍線部の漢字と反対の意味を示す漢字を書き、四字熟語を完成させなさい。

- ① 天変¹（ ）異
- ② 右往²（ ）往
- ③ 空³（ ）絶後
- ④ 一進⁴一（ ）
- ⑤ 同床⁵（ ）夢
- ⑥ 起死回⁶（ ）